

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

今年の上半期は・・・

前号でも紹介しましたが、表千家の全国大会が5月29日、30日両日に開催されました。アルピコバスのフロントに「表千家同門会 信州大会」の幕を張ったバスを見かけた方もおられるかと思えます。詳細は後段でご紹介しますが、表千家同門会長長野支部の事務長の役に付く私にとって、嵐のような日々が続きましたし、現在も続いています。

2年前より、茶席を設営する場所の交渉、長野県内の表千家会員と話し合い、どんな茶席を作り、どんな道具を使い、どんな抹茶や菓子を用意し、どんな水を使い、誰がどう動くか会議を重ねました。京都の本部に相談し、確認してもらい、不足の分指摘を受け、再度会議。京都本部の最終決定をもらい、会場や業者や会員と交渉をしてきました。全久院の仕事の合間を見



つけては時間を作り出しました。私にとっては大変いい勉強をさせてもらったのですが、これだけの時間に追い詰められてゆくという経験は初めてのもので、もう一回やれと言われたら、少し休ませてください、と弱音が出そうなくらいの経験となりました。何とか終わらせることができたので、これからはお盆に向かっての準備に入ります。

また、今年中には、蔵の屋根瓦の吹き替え工事を完了して、一連の大屋根瓦の葺き替え工事の終止符打ちたいと思います。寄付会計も護持会の承認をいただいております。記念の住職書による「南無釈迦牟尼佛」の掛け軸もお配りしております。まだお手元に届いていない方へも今年中にはお届けしますのでもうしばらくお待ちください。つきましては、まだご寄付いただけていない檀信徒の皆様にも再度寄付のお願いをいたします。寄付金につきましては集計し、総代会でその対応をきめ、全久院の護持のために役立てたいと思います。寄付につきましては下記のとおりです。

・一口 25000円で、1軒につき三口を目途にお願いします。

申込みは 先にお配りした申込み用紙を郵送かファックスで全久院へお送りください。お手元にはない方は郵送しますのでお申し出ください。
 送り先住所 〒390-0815 松本市深志3-7-50
 ファックス 0263-34-4300(電話 0263-36-3211)

・寄付の払込みについて

払込み期間 随時（檀家様のご希望をご相談ください）
 払込み方法 1、全額 一括払い
 2、分割 複数の払込み回数可能（檀家様のご希望、ご相談ください）
 3、払込み 現金書留 か 全久院へ持参
 払込み用紙 ゆうちょ銀行 払込み口座（払込み用紙がお手元にはない方はご連絡ください。郵送いたします。）

お盆参いのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年も副住職俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回ります。副住職も檀家様の場所を少しずつ覚えてきておりますので、計画どおりお盆のお参りができるかと思えます。

毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、五色の旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りに行かない場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。従来の周り順と多少変更がありますので、ご一覧ください。

8月	俊浩の回る範囲	住職の回る範囲
9日	新盆のお宅半分	新盆のお宅半分
10日	安曇、明科、麻績など超遠方に同行	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部
14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町、新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮淵、城山、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

お盆前の作業と懇親会に

本年も、お盆が始まるにあたり、本堂の掃除機かけ、山門の掃除、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思えます。常日頃の掃除は家族と、りらの会が掃除をしています。畳と板の間の掃除は手を抜くと建物自体が痛んでいきますので、先輩のお坊さんたちが伝えた方法で掃除を進めます。やはり雑巾がけが一番肝心と思えます。後は部屋の隅がきれいになっていないとすぐに汚れが広がります。たかが掃除ですが、先輩から伝えられている方法を次世代にも伝え、築100年を過ぎた古い伽藍を磨いて、ぴかぴかの板の間を維持してゆきたいと思っています。

ぴかぴかの本堂へ皆様をお迎えするためにも是非皆様お集まりください。毎回参加していただく常連さんもできました。写真は、本堂正面のガラス戸を拭いている時の様子です。女性陣は茶庭や庫裡南側の窓ふきをお願いしました。今年は本堂の掃除機か



けもお願いしたいと思います。

7月26日(土) 14時全久院の庭に集合、掃除(お墓の清掃・本堂の掃除機かけ・窓拭き・山門二階の拭き掃除など)、掃除が終わり次第、17時より夕食を兼ねた懇親会
作業のできる服装でお越しください。汗をかきながらの作業や懇親会ですので、堅苦しくないお寺の一面もわかっていただけるかと思えます。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。

盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様をまつるばかりでなく、仏様の世界、須弥山(しゅみせん)を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきつとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。



1、棚を作る場合(右上の写真参照)

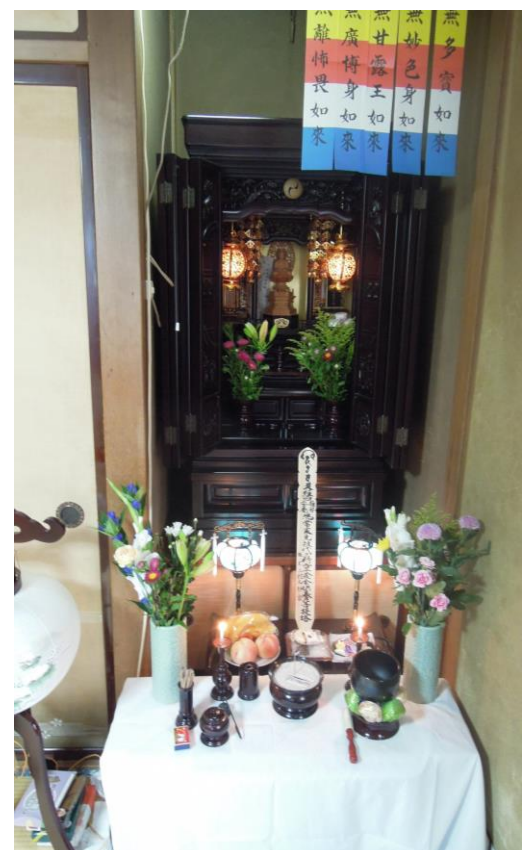
上の段に本尊様、(本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。)お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に向かって右へ、新しいものは左へおまつりします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水(お茶)、食(お膳、果物、菓子、嗜好品)などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。

2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり奉る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯笼や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思えます。



先住七回忌法要

前年11月30日、先住俊勝の七

回忌と、一緒に兄俊孝の一周忌、長女苑香の三回忌を執り行いました。広沢寺東堂を導師にお願いし、教区のご寺院様にお参りいただき、親戚の皆様、檀信徒代表で総代の皆様、約50名のお参りを頂きました。先住は88才で、6年前遷化しましたが、法事でも檀家の皆さんから思い出話をよく聞きます。皆さんに大変愛された住職だった思います。



特に「お酒は強かったね」は法事の「あとふき」には必ず出てくる言葉です。先住が「お酒の好きな和尚様といわれたが、本当はお酒が好きではない。お酒が好きだったらとっくに体を壊していた。嫌いだったから酒に溺れることがなかった」話していたのを思い出します。一日に4～5の法事を受けることもありましたが、一軒で5合ずつお酒を頂戴すると、一日で2升のお酒を飲み込んだのを目の前で見るのが何度もありました。好きでなければ飲めない量ですが、「好き」

だったら本当に体を壊したことでしょう。「嫌い」だからお酒が飲めたのでしょう。私も「嫌いだからお酒を頂戴できていると思います。ただし、私の限界は1升です。

そんな話をしながら「あとふき」を懐かしい方々と過ごしました。法事の良いところの一つは、親戚や知り合いとわいわい話をすることでしょう。その話の中から多くのエネルギーを頂いていると思います。

全久院の集い

座禅会

・・・青山俊董師「従容録」の講義・・・

4月12日土曜日、座禅会恒例の特別講義が開催されました。3時から6時までの短い時間でしたが、「第49則 洞山供眞（とうざんくしん）の講義をしていただきました。中国曹洞宗の祖といわれる洞山良价（とうざんりょうかい 807～908年）が師匠の雲巖曇晟（うんがんどんじょう）に「あなたが亡くなって百年して、人々が、あなたの真のところは何かと問うたら、何と答えたらよいですか」という問答です。



現代の言葉で言うなら「何を師匠として弟子に伝えようとして、苦しんでいる人々に対して僧侶としてどう導こうとするのか」と問うたのです。それに対して雲巖は「祇這是（ただ これ これ）」と答えました。曹洞宗の禅問答には、このように、何かを指し示す言葉が、「佛」の意味として使われます。代表的なのが「如（によ・ごとし）、恁麼（いんも）」ということばです。よく掛け軸や、額に書かれているのを皆さんも見たことがあると思います。

ある禅の先生は「曹洞宗の言葉は全体難しい。半分現して半分現さないのである。半分は奥歯

に物を挟んだごとくに云う」と評しています。このところを青山師は解説の中で「無情説法」と説明されました。「溪声山色是広長舌（けいせいさんしょくこれ こうちょうぜつ）」という言葉もよく掛け軸に見かけます。



人の口で語るのではなく、無情のもの大自然の山や川や木々が説法しているのだ、「自然の声が雄弁に真理を語り続けている」という意味です。常に周りの人々も大自然もあなたに語りかけていますよ、という意味になります。「祇這是」は、ずーっと語り続けられています、「これです、これです」と語り続けられていますよ！その声に耳を傾けなさい、声が聞こえるようになりなさい、その意味が分かるようになりなさい、と云うのが「祇這是」の意味です。青山師は表千家の茶を教えておられますが、「花の生け方を教えてください」と聞かれるそうです。その時の答えは「花がどちらを向きたがっているか、花に聞きなさい」と答えるそうです。大宇宙、大自然、花一輪が常に発し続けている声を聞きなさい、と説かれています。何か特殊な人や物が、特殊な、分かりにくい教えを説いているのではなく、どこにでもあることを、どこにでもあるものが語りかけ続けていることに気付くのが仏道修行であり、人生だと説かれています。上の記念写真に入っただき、すぐに愛知の尼僧堂に戻るべく、松本駅に向かわれました。

茶道コーナー

・・・表千家同門会全国大会・・・

5月29日（木）30日（金）の二日間開催されました。松本地区と蓼科・富士見地区の2箇所に分け、松本は護国神社、割烹松本館、国宝松本城に茶席を設け、蓼科はホテル滝の湯、富士見は犬養毅首相の別荘「白林荘」に茶席を設けました。全国から920人の参加者が集まり、松本市内のホテルや温泉旅館に分宿し、バス一台に乗り切れる40人がグループになり、各席を回りました。1日目松本地区を回ったグループは2日目蓼科・富士見を回り、2日目はその逆を回りました。



松本市内でフロントに「表千家同門会 信州大会」の幕を張られたアルピコバスを見かけた方もおられると思います。右上の写真は松本館内の茶席です。長野県中の会員が五つの席に別れ、菓子を出し、点前をし、茶を出しました。前回は30年ほど前に、長野の善光寺を中心に開催さ

れたのですが、当時を知っている会員はほとんどいませんので、初めてのご奉仕でした。道具を誰が出し、誰がどういう点前をするか、茶を出す段取り、どう控え室を設え、どう案内するかの打合せ会議が続き、準備には2年を要しました。この経験をまた日々の稽古に生かしてゆきたいと思えます。

私は事務長という立場でしたので、家元、お二人の若宗匠、家元の弟宗匠とご子息を案内して、各席に案内をする役でした。茶席に入り、お客様と直接触れ合う機会がなかったので、どんな茶席を楽しまれたのか感じるできませんでした。しかし京都本部から後日「クレームの電話がまだ入ってきません。こんな大会は初めてです」とのことですから、お客様たちは初夏の信州を満喫されたものと思えます。とにかく2年間の緊張に終止符を打つことができました。後は会計などの残務整理です。お盆までには終らせたいのですが・・・。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！

最近葬儀の形態が急変しています。数年前は身内・親戚・隣組・会社や交友関係の人が葬儀を手伝い、またお参りに来るというように、皆で個人を送る葬儀でした。しかし、最近では家族や、ごく身近な親戚のみのご葬儀が多くなっています。都会の風潮の変化がマスコミで取り上げられる為でしょうか、地方に伝統的に守られて来た葬儀や法事の形態が徐々に変わり始めています。

以前のようにいたずらに多くの人に呼び掛け、動員をかけるような人呼びは必要ないかと思えます。が、家族以外に知らせなかったため、後から知った方々が、葬儀後ひっきりなしにお参りに訪れるという、予想外の状況が生まれています。「お参りに来る方々の接待で休まることなく疲れ果ててしまった」などとおぼされた方もいます。伝統的な儀式は古臭い、と片付けてしまうのではなく、時代を超えて先祖が作り上げてきた理由を理解することが必要と考えます。自分や家族が絆を深め、悲しみに傷ついた心を癒し、亡き人の分まで代わりに生きようという新たな力に切り替える先祖の智慧が凝縮された儀式なのです。

ですから、どんな形で葬儀や法事をするか、行き当たりばったりでなく、健康なうちからしっかり考えておく必要があります。法事の時お唱えいただいている「修証義」に「光陰は矢よりも迅やかなり、身命は露よりも脆し、徒らに百歳生けらんは恨むべき日月なり。悲しむべき形骸なり」とありますが、現在ほど自分がどう生き、どう死を迎えるか、はっきりと自分の考えを家族と一緒に確認しあっておくことが求められています。自分のことなのに、周りに流されて、何のための葬儀だったのか分からずに終わってしまうことのないようにしましょう。

何度もこの紙面にて報告していますが、業者のホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほど高額になります。葬儀費用を比較してみますと100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者では、100人×25000円＝250万円くらい。寺を使えば100人×10000円＝100万円くらいになります。差し引き150万円程の差が出ます。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部（電話32-8700）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれ、皆さんに負担は掛かりません、

業者に「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてき

ますし、その積立金を法事などの別の用途に使うこともできます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れてしまいます。戒律を授かり、菩提寺の住職に戒名を付けていただき、心一つになった方々に送られて仏様になる、という葬儀の意味はやはり自宅や寺という場所でなければなりません。様々な事情で仕方がない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていたいただきたいと思ひます。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非ご一考ください。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。葬儀の後、請求書を見て子孫をビックリさせるようなことだけはしないでいただきたいと思ひます。ぜひお寺での葬儀や法事をお考えください。

大黒コーナー … オペラ コウモリ …

ヨハン・シュトラウス作曲、喜歌劇オペラ コウモリ 日本語上演を、10



月19日(日)午後2時開演、まつもと市民芸術館主ホールにて行います。今回は長野県内で活躍し大黒も参加している「声楽家集団 土の会」と、大黒主催の「オペラを楽しむ会」が主催する公演となりました。中野市市民会館でも公演があり、オーケストラ長野楽友協会の演奏による規模の大きな公演となります。

19世紀中頃のオーストリアが舞台となり、貴族社会、貴族たちの悪戯、刑務所、夫婦の駆け引き、男女の恋愛模様などが、シュトラウスの美しい曲によって進行します。皆さんも「あれ?どこかで聞いたことがある曲だ」と思われる曲がたくさん出てきます。また、日本語での上演ですし、喜劇として作られていますので笑える場面がたくさん出てきます。確かサイトウ記念でも上演されたオペラです。ちなみに大黒はソプラノの主演「ロザリンデ」で登場します。ぜひ聞きに来てください。お願いします。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

～施食会～

8月5日(火) 12時より自家製によるお弁当、12時半より観音講や合唱部の皆さんと一緒に懐かしい唱歌の合唱、13時よりお話、14時より法要(ご詠歌の会の皆様による奉詠)、15時よりお塔婆を配ります。今年は蔵の改修をするに当たり、蔵の整理をしたところ、皆さんに使っていただけそうな品々が出てきました。そこで、東日本震災復興支援のためのバザーを行いたいと思ひます。タオル・シーツ・ふとん・食器・石鹼などたくさんの品があります。お金とひもや風呂敷や紙袋などの持ち帰るのに便利なものを持ち寄ってお越しくください。一年ではさばき切れなければ来年も行いたいと思ひます。かなり良い品がありますので是非ご協力ください。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。



タオル・シーツ・ふとん・食器・石鹼などたくさんの品があります。お金とひもや風呂敷や紙袋などの持ち帰るのに便利なものを持ち寄ってお越しくください。一年ではさばき切れなければ来年も行いたいと思ひます。かなり良い品がありますので是非ご協力ください。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。

．．． 檀信徒作業と懇親会 ．．．

例年通り 7月26日(土) 14時より全久院で開催します。2時より本堂とお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。参加希望の方は 34-4300 へファックスください。

．．． 座禅会 ．．．

9月13日(土)・10月18日(土)・11月22日(土)・12月20日(土) お粥と精進料理。

以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月14日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、もの見方や生き方を豊かにすることができると思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月11日(木)・10月9日(木)・11月13日(木)・12月11日(木)

午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを始める計画をしています。ご希望の方はぜひご連絡ください。上記とは違う日程をくみたいと思います。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりが良く60代から90代の方が元気に集まってきます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月10日(水)・9月24日(水)・10月1日(水)・10月15日(水)・11月5日(水)・11月19日(水)・12月10日(水)・12月24日(水)

午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

お知らせ

．．． ホームページを開設しました ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまうようで見たことがない。若い人にはコンピュータのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作ったので、それをそのままホームページようにすることが出来るとのことで、コンピュータ管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して解説していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思います。ぜひ一度開いて見てください。